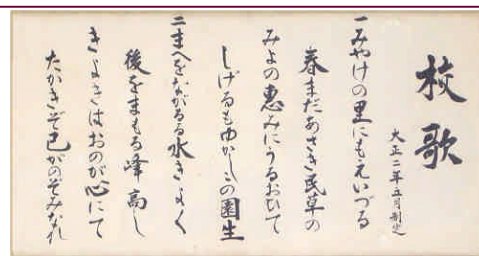


すぎなさん



三宅小学校同窓会 会報誌

三宅小学校全校児童数 126名（男68名 女58名）平成21年3月1日現在

平成21年3月1日発行

第4号

ご挨拶

三宅小学校同窓会長 小林和弘（第46回 昭和30年卒 日笠区）



同窓生の皆さん、こんにちは。ご健勝でご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。日頃は何かと母校の為に支援、ご鞭撻を頂き厚くお礼申し上げます。

三宅小学校では「地域の中で学び育つ生徒」の育成の為、家庭代表（PTA）・地域代表・学校代表による「地域学校協議会」を設置し、基本的生活習慣の育成から学習指導の充実に至るまでの20数項目に及ぶ指導要項を作成し、学期末毎に評価を実施し、十分な評価が得られない項目については更に成果が上がるべく重点的に対策を実施する、学校便りを地区全戸に回覧するなど、地域ぐるみの教育に取り組んでいます。

また、本校が三宅小学校として創立されましたのが、明治44年3月（1911年3月）であり、丁度2年後、再来年3月が創立100周年を迎えることとなります。そこで、ひとつの区切りの年として同窓会として何か母校の為に役に立てることはないかを同窓会理事の皆さんと検討し、実行に移したいと思っています。

その一つが、前号で報告致しました母校の駐車場新設ですが、関係者の皆様のご尽力によりようやく調査計画に町予算が計上され、完成に向け進み出しました。100周年迄には是非とも完成させたいと考えています。

次号では100周年記念としての計画の概要をお知らせできると思いますが、一つの心残る区切りとさせて頂きたく、同窓生の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方が今後、益々ご健勝にてご活躍されることをご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

子どもたちに自立を

三宅小学校長 島津静夫



同窓生の皆様、お元気で活躍のことと心よりお喜び申し上げます。昨年4月から三宅小学校に勤めさせていただき早1年を迎えようとしています。この間、同窓生の皆様や地域の皆様方の学校に対する格別のご支援ご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

さて、昨年から100年に1度の世界経済危機という状況に陥り、日本も不況が蔓延する中で派遣労働者をはじめとするリストラや内定取り消しなど不安な社会状況になってきています。年末にはこのような世相を表す漢字として「変」が選ばれました。確かに良いに付け悪いに付け変化の多い変な社会だったと思いますが、これはまさに、今年は良い方向へ「チェンジ」すること、世の中をかえていかなければならないことを表しているのではないのでしょうか。

学校教育においても学習指導要領が改訂され、平成23年を目途に今年から随時移行していきます。時間的にも内容的にも多くなってきますが、大切なことは将来を見据え、子ども達にとって今何が必要かをしっかり見極めながら日々の教育活動を進めていくことだと思っています。現在、この三宅の里で育まれてきた本校の子ども達は、本当に素直で、学習に対しても日々コツコツと努力をして力を付けてきています。今後、この子ども達が将来どんな社会や立場におかれても自ら考え切り開いていくこと、つまり自立した子どもを育てることが大切だと考えます。そのためにも同窓生や地域の皆様のより一層のご支援ご鞭撻を今後ともお願い申し上げます。

同窓会便り

団塊の世代のすぎなさんとお伊勢さん詣り

第52回（昭和36年）卒業生 田中信太郎（日笠区）

『すぎなさん』、まさに言い得て妙、この三宅小の同窓会会報誌としてこれほどふさわしい名称はないと思います。

かつて、初夏の緑の木漏れ日の下、身をかがめて両手ですくい飲んだ水の清涼な美味しさは、50年経った今でも忘れることができません。ある時ふと思いつくまま其処に立ち寄ってみました。林が伐採整備されたせいか当時の緑深さは薄まりましたが、明るい雰囲気の中、記憶以上にささやかで赤く小さな水源（※）でそこからチロチロと湧き出る清水にほっと一安堵したのでした（※瓜割の滝と同じ紅藻類？）。

「三宅の里に～・・・♪」というあの校歌とともに忘れ得ない懐かしい大切な風景です。

さて、昭和36年卒業の私たちは、戦後ベビーブームのいわゆる第一次団塊の世代のまっただ中、総勢56名の大所帯で「うめ組」と「さくら組」の2クラスありました。1学年2クラスは私たちだけだったと聞いています。学年途中でのクラス替えはなかったので1年生で入学したままのメンバーで6年生の卒業まで持ち上がりました。

そのかつての涙垂れ小僧&控えめお嬢たちも年を重ねるにつれ世のご多分にもれず昔回歸、最近では、同窓会を開いては昔を懐かしみ旧交を温めています。

昨年の同窓会は、かねてからの約束どおり還暦記念のお伊勢さん詣りでした。世話役さんと日笠の山崎宮司さんの計らいもあってか、普通の人は立ち入れないような本宮近くの玉砂利の上で、人々の羨望の視線を背中に感じながら柏手を打ち祈ったものです。

また、引き続き案内された舞殿では荘厳な神楽も鑑賞し幽玄の世界に浸ることができました。三宅・仮屋の世話役さんホントにありがとう。

夜の鳥羽ホテルでは、料理はイマイチだったが、「〇〇ちゃん」、「△△兵衛」とあだ名やら屋号が飛び交いま

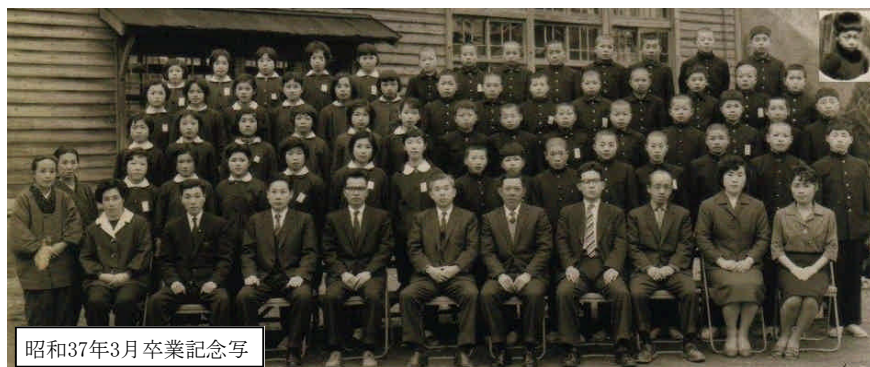
くり、気分はまるで小学生で盛り上がり。古い木造講堂の「肋木」（当時とはどんな漢字か知りませんでした。）、校庭の防空壕後に潜むコウモリ、家庭教室で暗幕を締め切った映画会等々・・・。

給食室の脱脂粉乳のミルクを入れる大きな三角のアルミのポットの話には涙が出るほど懐かしかった。みんなはこのミルクが嫌いで鼻をつまんで飲むと言っていたが、実を言うとわたしは給食のこのミルクが楽しみだったのです。恥ずかしながら美味しかった。

でも、この夜話していくうちにこれに同感の級友がいたことが判明し大いに感激し意を強くしました。

私たちは今、御食国という恵まれた食環境にあって美食に親しみ、また、社会全体が飽食に満ち溢れています。このような中、ありがたく感謝するという基本的な心を失ってはならないと思います。

単純なノスタルジックな感傷で回顧するわけではありませんが、還暦を迎えたことを契機に文字どおり原点に立ち帰って物事を見つめ直すことの大切さをしみじみ思う昨今です。



昭和37年3月卒業記念写



平成20年1月伊勢参拝記念

小学校時代に思いを馳せて

第54回（昭和38年）卒業生 岩崎育夫（名古屋市守山区）

名古屋に住み始めてかれこれ40年近くになり、節目である還暦まであとわずかになった現在。

昭和33年にくりくり坊主頭で入学して、38年卒業するまでの三宅小学校での学び舎が遠く、遙かかなたの全景が臉に浮かんできます。

隣村がすぐそこという、学校から約4キロ離れた道

程を今では珍しく煙をはいて走る蒸気機関車やバスで又、乗り遅れた場合は歩いて通った6年間。当時の校舎といえば今のような建物でなく木造校舎で、あの時代はエアコンというものがなくて冬になれば、窓に近い前列に石炭ストーブがあって、校外石炭堆積場から

（3 ページに続く）

(2 ページから続く)

石炭を運び、教室を暖めて授業を受けたものでした。

そして、寒い冬から春になり運動場の山場近くには満開の桜が咲きほこり、やがて秋の運動会、仕事を休めて応援に見えた、それぞれの家族との昼休み、おにぎりやお弁当を一緒にしながら楽しんだ一日。授業の合間の休み時間にはドッジボールや鉄棒にぶら下がりみんなと遊んだこと、夏休みにはドクダミやゲンノショウコを採取して持ち込んだことやいろんな作品の品評会も思い出します。音楽室の上の部屋を裁縫室といったかな、いつも黒幕を締めて白黒教育映画を見させられてたっけ。そういえば、あの頃に映画館が上中駅近くに出来て初めてその映画館で見たものが月光仮面だったこともよく覚えています。

校門を出て階段を下りるとその正面は「たや？」という店があって帰りに立ち寄ったことを思い出します。買い食いは良くないとか今ではあまり耳にしなくなった道徳心や良心について先生方に教えられたものでした。1年生から3年生までは田辺民江先生に、4年生から6年生は大岩三千代先生、武倉正彦先生、鹿野公夫先生にそれぞれいろんな教を頂いたからこそ今の私があるのだとお世話になった先生方に感謝しています。

数年前に地元同級生の協力を得て同級会を開き恩師を交えて懐かしく語り合ったことも昨日のように思い出します。

私の礎

第63回 (昭和47年) 卒業生 武田敏孝 (井ノ口区)

「大人は子供が思うほど大人でなく、子供は大人が思うほど子供ではない。」と誰かが言われていましたが、大人と子供の距離は一体どれくらいあるのでしょうか。

三宅小学校を訪れる機会があると、時々、低学年の教室に入って昔を懐かしみます。小さな机と椅子、教室の後ろに並べられた図工のかわいい作品などを見ると、日頃の俗な風景から解放され、私の楽しかった小学校時代に戻り、その思い出にしばし浸ることが出来ます。

今でも、小学校での出来事を鮮明に覚えています。

春は巣立つ人、送る人それぞれの別れに感極まる「卒業式」と、新しい出会いにうれしはずかしの「入学式」。

聞くところによりますと三宅小学校も2010年には創立百周年を迎えるとのことそして秋には記念行事が開かれるような計画があるとか。大いに盛り上がってほしいと願っています。

名古屋では毎年各県から一堂に集まりPR活動をする名古屋郷土祭りが開かれます。昨年も福井県ブースで郷里からお見えになった方々と一緒になって越前若狭のPRをさせていただきました。19年度の名古屋・福井県人会総会の席上において日笠出身の村上小浜市長ともお会い出来、歓談しながらより一層ふるさとに思いを馳せました。

名古屋・福井県人会の会員の一人としてこれからも郷里のことを思いつつがんばって日々を送りたいと思っています。



夏は娯楽の無い当時、ほとんどの男子が巨人の星に憧れ、炎天下のなかでも夢中で球を追いかけた「野球」と、お寺の本堂に布団をひいてみんなで寝息を立てて泊まった「良い子の集い」。

秋は前夜興奮して眠れず、当日はしゃぎまわった「遠足」と「運動会」。お昼のお弁当はおにぎり、卵焼き、赤ウインナーがご馳走でした。

冬は講堂で「手つなぎ鬼ごっこ」、「ハンドベースボール」、「相撲」。校庭では、「雪合戦」と「スキー」。みんな汗が出るまで一生懸命でした。

教室の中での思い出は、勉強が出来ずに怒られた事と給食が楽しみであった事。とりわけカレーシチューの日は、朝から機嫌が良かったようです。

私の「知・徳・体」の礎を築いていただいた恩師、同級生の皆様、家族をはじめ地域の皆様にあらためて感謝申し上げます。

子供はいつの世も家庭や地域の宝です。子供の目線でいつも社会を眺め、いま安全なのか、夢や希望があるのか、好奇心の目の輝きを曇らせていないか、子供の自主性に配慮しながら大人もスクラムを組み、判断と行動をしなければならないと思います。ボールを決して前に放り出さず、丁寧に後続く人にパスするラグビーのように。

昭和46年夏 野球大会優勝記念写真



三宅小学校 同窓会費 決算報告

収入の部

項 目	金 額 (円)	備 考
前年度繰越	22,483	
会費	117,000	300円×390人
入会金	10,500	500円×21人
貯金利息	145	
計	150,128	

残金

19,490円は次年度の会計に繰り越させていただきます。

平成21年3月1日

三宅小学校同窓会事務局

支出の部

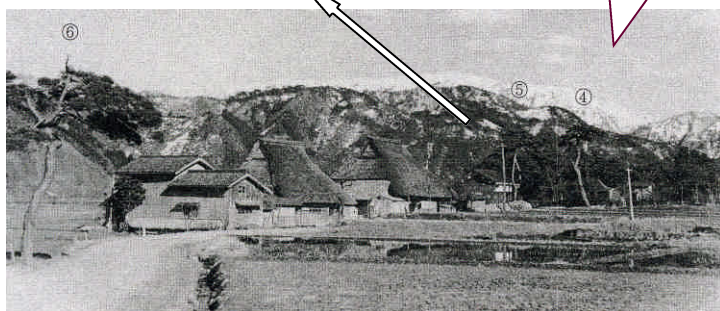
項 目	金 額 (円)	備 考
事務費	6,075	印刷費、切手・はがき代
会議費	6,050	同窓会会報誌編集委員会
同窓会会報誌	78,513	同窓会会報誌印刷費等
積立金	40,000	
計	130,638	



かつての
鯖街道と街道松

三宅 八太夫宅前
(鯖街道)

市場側より東方向
(現在の運動公園前
より)



編集後記

三宅小学校を卒業して約50年くらいになり歳をとりましたが、若い人にはまだまだ負けない気で頑張っ

て生活をしています。学校の帰り、マラソンをして帰った事を懐かしく思

い出しています。まだ私たちが通っていた頃は街道松が何箇所もあり

ましたが、今では、信主神社前にしか残っていないのが寂しい気がします。

来年、三宅尋常小学校(創立当時7集落)が100周年になるそうです。

いつまでも美しい自然を残し、頼もしい人材がたくさん育っていくように祈っています。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

平成21年3月吉日

平成20年度 三宅小学校同窓会 会報誌 編集委員

橋本孝一 (神谷区理事 第51回卒)

田中信二 (神谷区理事 第51回卒)

玉井哲夫 (三宅区理事 第52回卒)

西川 均 (三宅区理事 第54回卒)

松宮高宏 (同窓会幹事)

高橋香苗 (同窓会幹事)

三宅小学校ホームページ

同窓会会報誌は、三宅小学校ホームページでも配信しています。県内外でご活躍の皆様にはホームページよりダウンロードしてご覧いただきたくよろしくお願いします。(会報誌は、PDF形式でアップロードしてあります。)

Web サイトもご覧ください

<http://kore.mitene.or.jp/~s-miyake/>

同窓会事務局住所

〒919-1542

福井県三方上中郡若狭町井ノ口49-11

電話：0770-62-0005

FAX：0770-62-0038

電子メール：miyake-es@edu.town.wakasa.fukui.jp